

新しいことを学ぶコツは、 4つのC

日本アイ・ビー・エム株式会社
AD&I. アーキテクト統括
シニア アーキテクト

杉中 礼

Rei Suginaka



日本IBMに入社するまで杉中礼は、コンピューターや半導体のことをあまり知らなかった。しかし、新しいことを学ぶのが好きだという彼女は、次々とプログラミングやテクノロジーについての知識と経験を身に付けていく。入社して17年目、今ではアーキテクトとして金融会社のプロジェクトの全体設計や技術提案を行っている。

「金融業のお客様は特にガバナンスがしっかりされているので、実績のあるテクノロジーかどうか、業界で確立されたやり方かどうかを非常に重視されます。『私はこう思います』という言い方ではなく、最新の事例や海外の文献などを紹介しながら、きちんと裏付けされた技術を提案するようにいつも心掛けています」

杉中は何かに夢中になると、自分が納得できるまでとことん追求しないと気が済まない性分だ。大学では化学を専攻し、文字通り寝食を忘れて創薬の研究に没頭した。実験に使う薬品は何百種類あり、時間をかけた分だけいろんな組み合わせの実験ができる。ほとんど学校に泊まり込むような状態で、何日も徹夜して研究していたという。

社会人になると彼女の興味はコンピューターへと移る。パソコンの知識がほとんどなかったため、秋葉原で組み立てキットを買って、自分でパソコンの組み立てからチャレンジした。自分でパソコンを組み立ててみると、マザーボードがどれでCPUが何をしているか理解することができる。そうやって自分の手を動かして新しい知識を身

に付けていくのが杉中のやり方だ。

入社後3年目に配属されたプロジェクトは、新しい技術を勉強しながら、課題を解決しなければならない難しいプロジェクトだった。しかし、本人は毎日楽しく仕事をしていただけだと振り返る。

「新しいことを勉強するのが趣味みたいなものなので、やらされているという感じはまったくありませんでした。徹夜続きのこともありましたが、楽しく没頭して働いていましたね。当時はいろんなことをたくさん勉強したので、勉強のコツを身に付けることもできました」

今はアーキテクトとしてプロジェクトに携わっているため、自身でプログラミングをする機会はほとんどない。だが、腕がなまってしまいうからと、週末になると趣味でプログラミングを勉強している。

「モバイルのアプリを作ったり、気になる新しい技術を試してみたりしています。自分で触って理解していないと、その技術についてお客様に聞かれた時にちゃんと説明ができません。時には徹夜してプログラムのデバッグをするほどのめり込んでいます。ここだけの話、プロジェクトがサービスインした時よりも、徹夜してデバッグがうまくいった時の方が達成感がありますね(笑)」

* * *

仕事の一番のリフレッシュ方法はドライブだ。車を運転することが大好きで、2～3日の休みが取れると車に乗っ

ソフトウェア開発の匠たくみ

で日本中を回る。社会人になって最初のボーナスで車のローンを組み、すでに本州の東西南北端まで走行を果たしている。エンジンの回転音を聞きながら、自分のペースで好きな道を走るのが何よりの気分転換になっている。

ドライブ以外にも、お菓子作りや編み物、読書など、杉中は趣味が多い。リフレッシュの方法がたくさんあるため、ストレスがまったくたまらないのだという。

「どんなにプロジェクトが大変な時でも『いつも元気だね』と言われる。一度ぐらい『ストレスで胃が痛い』と言ってみたいです(笑)」

そんな杉中だが、最近ストレスを感じた体験があった。初めて担当した新人研修だ。

「かなり厳しく教えてくださいと人事の方から注文があり、厳しいキャラクターを作って研修をしていたのですが、自分が疲れてしまいました。人に教えるということは本当に大変だなと感じました」

杉中自身、あまりコンピューターのことを知らないところから、第一線で17年間、クライアントのプロジェクトに携わってきた。そんな自負があるからこそ、新人社員に伝えたい思いがある。

「最新の技術を学ぶことは重要です。しかし、来年になるとさらに新しい技術が出てきます。これから長く働いていくためには、今の“最新”だけを学ぶのではなく、新しいことを学び続ける、興味を持って追いつけられる学びのコツのようなものを身に付けてほしいと願っています」

* * *

彼女が座右の銘にしているのは、ウォルト・ディズニーの「夢をかなえる秘訣は、4つのCに集約される。それはCuriosity(好奇心)、Confidence(自信)、Courage(勇気)、Constancy(継続)である」という言葉だ。この言葉が、自分の生き方にピッタリだと杉中は感じた。ウォルトの言葉はこう続く。「中でも一番大切なのが自信だ。一度こうだと決めたら、脇目も振らずに、一片の疑いもなく、それに没頭することだ」――。持ち前の好奇心で常に勉強を続け、没頭しながら自分の世界を広げてきた杉中にとって、まさに自分の生き方を表した言葉だった。

「17年前は半導体のことも知らなかった自分が、お客様の前でアーキテクトとして意見するようになるには、勇気を持つことと継続することが重要だったのです。そ

して何より、自分に自信を持つことが大事でした」

杉中はここ数年、女性技術者の育成やキャリアアップに関するダイバーシティ活動にも取り組んでいる。社内外でダイバーシティの活動を行っているのは、女性にもっと自信を持ってほしいという思いからだ。

「自分のやっていることに自信を持ってない女性がとても多いように感じます。誰かと比べて自分はまだまだ未熟だと思うことは私もありますが、それを自信のなさに結び付けてはいけないと思うのです。自信を持って背筋を伸ばして、仕事をしてほしいと思います」

実は杉中の母親も、外資の製薬会社で技術翻訳の仕事をしていた。外資系企業は女性にとって働きやすいと母親に言い聞かされていたことも、IBMに入社を決めた理由の一つだったと彼女は明かす。

「IBMは女性にとって働きやすい環境ですし、女性を後押しするプログラムもたくさんあります。これからIBMに入ってくる若い女性、社会人になる女性たちには、できるだけ会社で長く働いてキャリアを重ねてもらいたいですね。母もよく『女性はずっと働いた方が絶対に得。自分で好きな服が買えるわよ』と言っていましたから(笑)」



(左)現在の愛車は3台目。休みがとれると運転すること自体を楽しみながら遠方まで出かける。



(下)働く女性にもっと自信を持ってほしいと始めたダイバーシティの活動も、今年で4年目になる。